

## 平成28年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成 28 年 10 月 31 日

校番	068	学校名	広島県立祇園北高等学校	校長氏名	柘磨 昭孝	◎・定・通	◎・分
----	-----	-----	-------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きめ細かな目標設定が行われている。今日の学校教育の目指す方向は、生徒の主体的な学びを促す授業づくりを推進させることである。この目標を中心に据えて、各分掌・教科・学年・担任が連携して取り組もうとするのは適切である。「行動計画」に具体的に記述されている語彙(特にICE理論やICEルーブリックなど)が難しいと思われる。</li> <li>・北高の先生方の実践力は安定していると考えられるので、「C」という評価が出た場合は、指標が高いか、評価の仕方に問題があるか、どちらかであろうと考える。</li> </ul>
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状がしっかり把握されており、適切な取組が行われている。</li> <li>・ICEモデルを軸とした授業構築の実施率が目標の80%を上回っていることは素晴らしい。</li> <li>・年5回の家庭学習調査を行い、その結果を個人面談で活用していることは、よく配慮されている。</li> <li>・宅習時間調査について、生徒本人の申告をもって評価することには疑問もある。</li> </ul>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が結束し、目標達成に努力されており、適切に取組がなされていると判断する。</li> <li>・ICEモデルの実施率84%は素晴らしい。ICEモデルの研修は具体的にどのように行われているのか、授業でICEモデルをどのように活用しているのか、もっと知りたい。</li> <li>・生徒が学力を向上させるためには、進路意識を明確にさせることが肝要である。その方策の一つとして、各学年の進路だよりをタイムリーに発行して、担任も活用しているとのことであるが、これは非常に効果的に機能していると考ええる。</li> </ul>
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価結果の分析がきめ細かく行われている。</li> <li>・各学年とも、模試結果などをもとに生徒の分析会議を行い、各学年の状況に応じて組織的に生徒個々の指導に当たっており、適切な取組である。</li> <li>・県教育委員会が目指す方向性と学校の取組との間にギャップを感じていたが、本日の説明を聞くことにより、よく理解することができた。</li> </ul>
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌が改善に深く取り組んでいる姿勢を感じる。また、課題を明らかにして、組織的に取り組むことが方向付けられていて適切である。</li> <li>・学習習慣を定着させることは、なかなか成果は表れないが大きな課題である。</li> </ul>
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の経営ビジョンが明らかにされていることで、教職員の日々の具体的な活動に意味を与えることができる。「いったい自分が、何のために、どこを目指して、何をしているのかが、よくわかった」と教職員自身が感じ、自分の仕事や個別の活動の意味を理解したとき、はじめて動機付けや学校への一体感が喚起されると考える。</li> <li>・評価結果の分析、今後の改善方策等、しっかり取り組んでいる。各分掌・教科・担任がそれぞれの立場で課題を明らかにしており、生徒の学力向上、豊かな感性の育成が図られていくものと期待している。</li> <li>・達成度とスピード感は、親を巻き込むことも大切である。</li> </ul>